

社会技術研究開発事業  
令和5年度研究開発実施報告書

「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム  
(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)」  
「孤立・孤独予防に資する近隣社会環境の多様性の可視化  
による戦略的プレイスメイキング」

内平 隆之  
兵庫県立大学 地域創造機構 教授

## 目次

1. 研究開発プロジェクト名 .....	2
2. 研究開発実施の具体的内容 .....	2
2-1. 研究開発目標 .....	2
2-2. プロジェクトのリサーチ・クエスチョン .....	2
2-3. ロジックモデル .....	3
2-4. 実施内容・結果 .....	4
2-5. 会議等の活動 .....	10
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 .....	12
4. 研究開発実施体制 .....	12
5. 研究開発実施者 .....	14
6. 研究開発成果の発表・発信状況, アウトリーチ活動など .....	16
6-1. シンポジウム等 .....	16
6-2. 社会に向けた情報発信状況, アウトリーチ活動など .....	16
6-3. 論文発表 .....	16
6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表) .....	17
6-5. 新聞/TV報道・投稿, 受賞等 .....	17
6-6. 知財出願 .....	17

## 1. 研究開発プロジェクト名

孤立・孤独予防に資する近隣社会環境の多様性の可視化による戦略的プレイスメイキング

## 2. 研究開発実施の具体的内容

### 2-1. 研究開発目標

本研究開発では、場所からコミュニティへ、つながりを感じる助けとなるプレイスメイキングの方法を公民学連携で共創し、近隣社会環境の多様性を活かして空間的に処方することで、孤立・孤独を抱えがちな性格の人たちが公共空間に立ち寄りやすく、ハイリスク者も誘いやすい社会の実現を目指す。本研究開発のプレイスメイキングとは、誰もがアクセスできる公共の場で行われる、場所との通いを構築するための近隣社会環境への介入方法を指す（以降、PMと略）。

研究開発要素1「社会的孤立・孤独メカニズム理解と、社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像の描出」として、孤立・孤独に陥りやすい性格傾向および空間的・社会的・情動的選好を明らかにし社会的孤立・孤独メカニズムを理解する。これにより、性格傾向に配慮した立ち寄りやすい公共空間づくりを支える社会的仕組みを描出し、孤立・孤独の一次予防につなげる。

研究開発要素2「人や集団が社会的孤立・孤独に陥るリスクの可視化と評価手法(指標等)の開発」として、まず、孤立・孤独ゼロ次予防モデルと孤立・孤独1次予防モデルを開発する(目標1)。次に、性格傾向に起因する孤立・孤独に陥りやすい複合傾向を明らかにする(目標2)。最後に、各予防モデルに基づき近隣社会環境の多様性と予防格差を可視化する(目標3)。

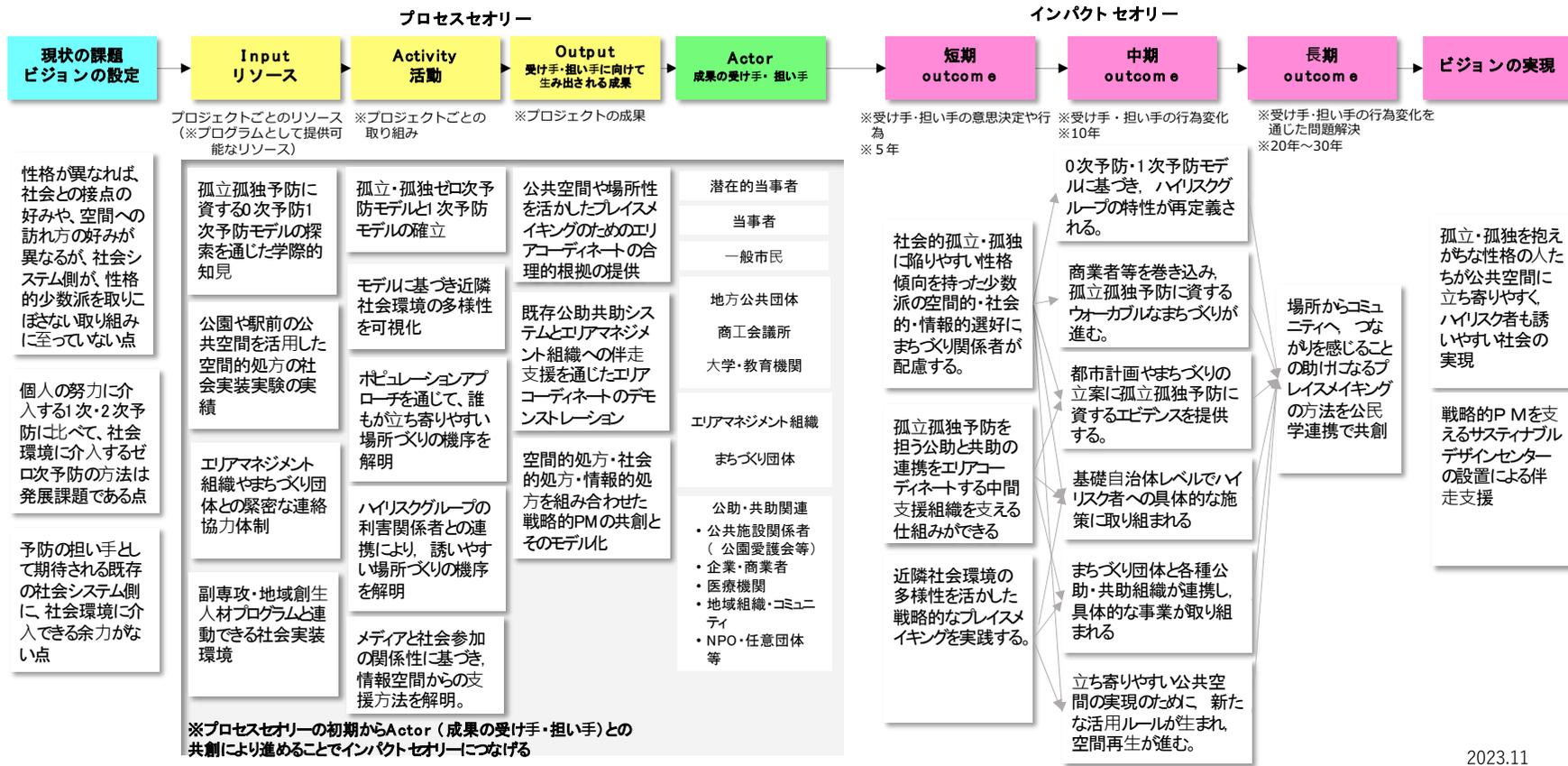
研究開発要素3「社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組み」として、まず、孤立・孤独予防格差解消のための空間的・社会的・情動的選好に基づき、散策式・移動式・情報支援式の3つのPMモデルを開発する(目標4)。次に、空間的・社会的・情動的選好に配慮した場所への立ち寄りやすさを高める戦略的PMの方法をエリアマネジメント組織と共創し検証する(目標5)。最後に、孤立・孤独予防に取り組む共助システムを回復させる伴走支援の仕組みを構築する(目標6)。

### 2-2. プロジェクトのリサーチ・クエスチョン

- Q1. PMは、孤立・孤独予防として、どのような性格傾向の人に有効か？
- Q2. 近隣社会環境の多様性を活かし、どこでPMを行うべきか？
- Q3. 孤立・孤独予防格差解消のために、どのような空間的・社会的・情動的選好に合理的に配慮すべきか？
- Q4. 場所への立ち寄りやすさを高める戦略的PMは、どのような社会的ネットワークを構築して、だれと実施すべきか？
- Q5. まちの中に、誰もが気軽に訪れることができ、他者とつながれる「場所」をつくるPMを通じて、誰もが健康に過ごせるまちの仕組みは、どのように実現できるか？

### 2-3. ロジックモデル

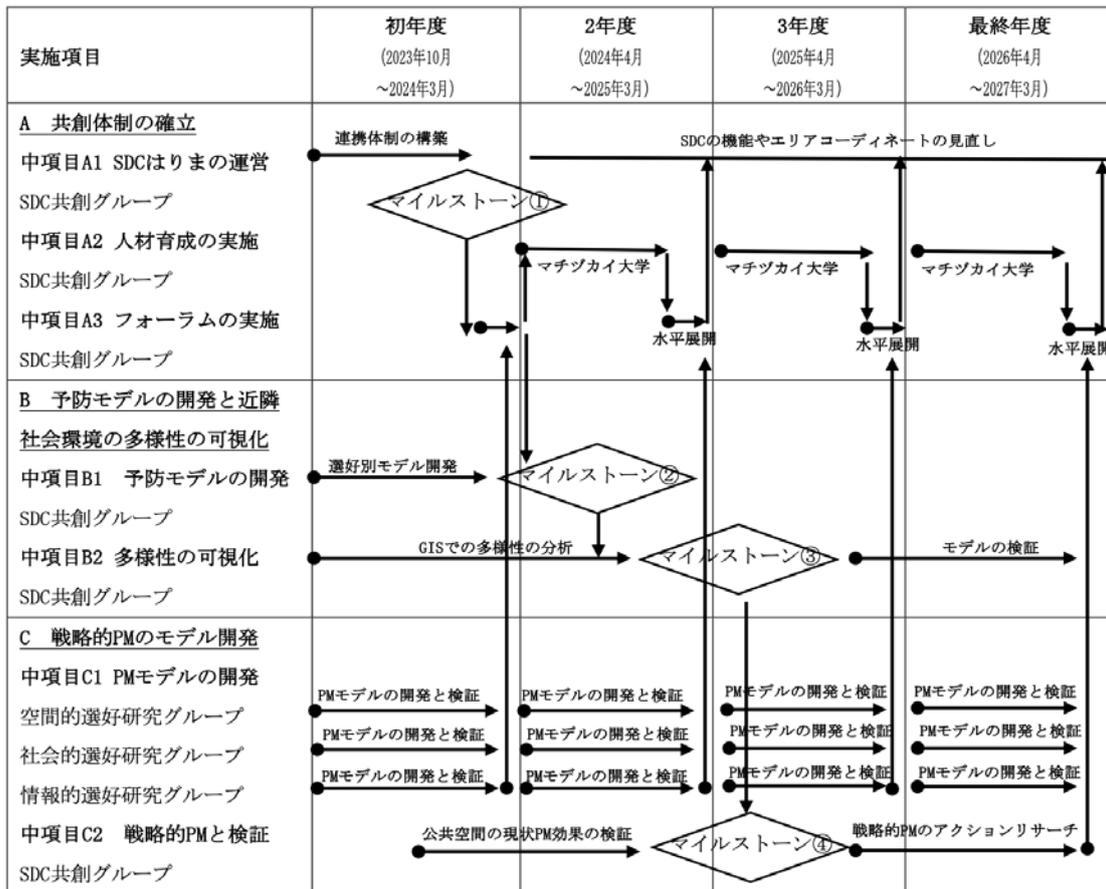
SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)  
 「孤立・孤独予防に資する近隣社会環境の多様性の可視化による戦略的プレイスメイキング(内平P)」ロジックモデル



## 2-4. 実施内容・結果

### (1) スケジュール

- マイルストーン① SDCはりま設立検討会（仮）の設立による共創体制の確立
- マイルストーン② 孤立・孤独ゼロ次予防・1次予防モデルの開発
- マイルストーン③ 近隣環境多様性に基づくリスク可視化モデル開発
- マイルストーン④ 近隣社会環境の多様性を活かした戦略的PM実装



### (2) 各実施内容

#### 当該年度の到達点A

住み続けられるサステナブルな姫路のデザインを考える連絡準備会を設立

#### 実施項目A-1 公共空間活用のための連携体制の構築

実施内容：2021年度に姫路市と締結した「姫路市民の孤立孤独状況と公園等の施設利用傾向に関する調査分析にかかる連携協力に関する協定書」をバージョンアップし、「姫路市における公共空間を活用した孤立・孤独予防支援に係る社会実装研究に関する協定」を（以降、新協定）、令和5年12月31日締結した。公共空間の担い手との連携体制の拡大としては、姫路市高等教育室を窓口、これまで連携してきた公園緑地課に加えて、地域福祉課、生活援護課、こども未来健康支援センター、こども総務課等と連携・相談できる体制ができた。

## 実施項目A-2 人材育成の実施

**実施内容：**取り組みのマネジメント体制として、協力団体である、「一般社団法人ひとネットワークひめじ」「NPO法人スローサエティ協会」「任意団体まちづくりof Modern Art ひめじ」の3つの団体の担当者と月2回程度のワークショップ検討会を実施した。計画書におけるSDCはりま準備会（仮）にあたる、意見交換を踏まえて「住み続けられるサステナブルな姫路のデザインを考える連絡準備会」を設立した（以降、サステナひめじ連絡準備会）。また、姫路商工会議所都市まちづくり委員会との人材育成面での連携を試行して、2月7日に「複雑な課題を読み解く！企業・地域の未来を探る！システム思考&TOC入門講座」を共催し、今後の連携に向けた事業者とのネットワーキングを試行した。

## 実施項目A-3 フォーラムの開催

**実施内容：**準備会のキックオフフォーラムとして、3月3日に姫路駅前広場地下通路にて、「住み続けられるサステナブルな姫路のデザインを展望する～誰もが立ち寄りやすい駅前づくりから、誰でも誘いやすいまちづくりへ～」を開催した。

## 当該年度の到達点B

### 予防モデルの発展および近隣社会環境を分析するための基盤DBの作成

#### 実施項目B-1 孤立・孤独ゼロ次予防モデルと孤立・孤独1次予防モデルの開発

**実施内容：**これまでの孤立孤独予防に資する社会的選好および空間的選好の研究結果を検証するために、研究倫理審査を経て実施許可を2024年1月に得て、全国エリア別人口按分での10,000人規模での調査を2月に実施した。情報的選好に関しては、孤立・孤独予防に対する規範の影響を探索するために全国エリア別人口按分での3,000人規模でのアンケートを1月に研究倫理審査の許可を得て、3月に実施した。

#### 実施項目B-2 近隣社会環境の多様性を可視化するためのGISによる基盤DBの作成

**実施内容：**姫路市中部第一エリア（9km<sup>2</sup>）を主な対象に社会的要因（町丁目、小学校区、郵便番号エリア等）、空間的要因（公共施設等の各種施設の分布、空中写真からの緑の抽出等）の基礎DBを作成した。空き地を抽出するために姫路市との協定に基づき、担当課から分筆GISデータの提供をうけた。小公園については中部第一エリアに点在する公園の空間特性のモデル化を実施した。さらに、立ち寄りやすさの分析のために、各種人流データを取得した。

## 当該年度の到達点C 戦略的PMのモデル開発

### 実施項目C-1 空間的・社会的・情報的選好に基づくPMモデルの事例研究

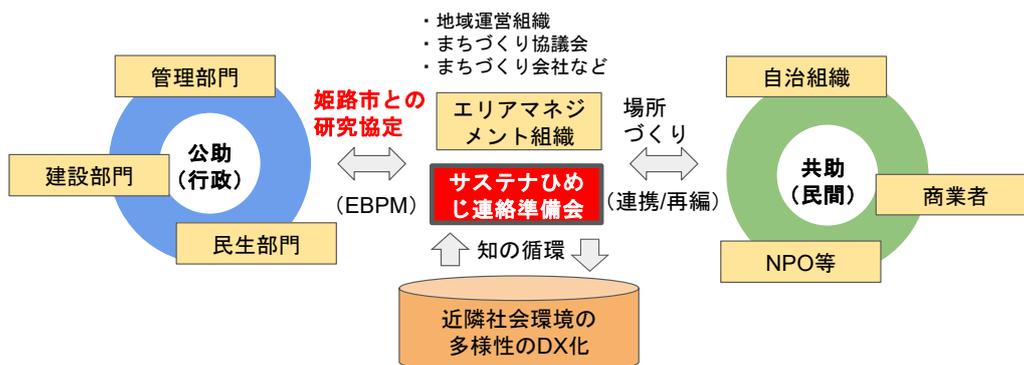
**実施内容：**すでに関係がある事例について継続研究を進め、空間的・社会的・情報的選好を活かして、どのような介入が有効か探究した。取り組みや展開方法については事例収集をすすめた。特に、ハイリスク者との関係づくりについては、これまで取り組んできた神戸市のニュータウンや沖縄県の共同売店、兵庫県豊岡市国府地区のコミュニティセンター、山口県宇部市の防災福祉コミュニティなどの事例研究に加えて、宮城県気仙沼市大浦地区での取り組みや兵庫県姫路市青山地区での取り組み、など事例研究に着手した。

## 実施項目C-2 介入の効果検証の予備調査

**実施内容：**孤立や孤独を抱える対象者が、公共空間に立ち寄っているかどうか、プレイスメイキングの状況を診断するための、簡易アンケートを作成し、研究倫理審査の許可を得た。姫路駅前広場、山野井公園、桜山公園にて、簡易アンケートを使ったプレイスメイキングの予備調査を実施し、実装面での課題を確認した。特に、先行して研究を進めてきた小公園については、3月20日に山野井公園において、移動博物館車や薬局の薬剤師を招き、孤立孤独予防に資する公園処方を探る予備実装実験を試行した。

### (3) 成果

- ①社会的孤立・孤独メカニズム理解と、社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像の描出
- ・ サステナひめじ連絡準備会（計画書におけるSDCはりまに対応）を設立し、地域の担い手を伴走するためのエリアマネジメントの基盤づくりに着手した。
  - ・ 公共空間活用のための連携体制の構築として（A-1）、新協定を結んだ。これにより、公共空間を活用した、孤立・孤独予防の取り組みの社会実装を検討・調整する窓口を確保した。
  - ・ 人材育成をはかる社会像として（A-2）、姫路商工会議所都市まちづくり委員会と人材育成面での連携を試行し、「複雑な課題を読み解く！企業・地域の未来を探る！システム思考&TOC入門講座」を共催し、受講者からの講座の継続への評価を得た。その結果を踏まえて、次年度以降も継続し、官民学連携でのエリアマネジメントの中間支援を担う人材育成について連携していくことになった。
  - ・ キックオフ・フォーラム（A-3）については、A-2の人材育成講座における関心テーマを考慮して、「誰もが立ち寄りやすい駅前づくりから、誰でも誘いやすいまちづくりへ」を主題に、エリアマネジメントの中間支援を担う商業者・行政職員・NPO等のプラットフォームづくりとネットワーキングに着手した。



エリアマネジメント組織やまちづくり団体との緊密な連携体制の構築

### ②人や集団が社会的孤立・孤独に陥るリスクの可視化と評価手法（指標等）の開発

- ・ 孤立・孤独ゼロ次予防モデルと孤立・孤独1次予防モデルの開発（B-1）については、これまでの研究チームの研究蓄積を整理し、利害関係者（孤立・孤独対策の担当者やまちづくり関係者）との意見交換を通じてモデル構築し、「戦略的PMを通じた重層的孤立・孤独予防モデルの原案」を作成した。
- ・ この原案に基づき、ゼロ次予防および1次予防モデルを統計的因果推論で明らかに

するために、全国エリア別での人口按分10,000人を対象に、UCLA3・LSNS6・性格傾向・社会的選好・空間的選好等のデータを取得した。

- ・ 情動的選好に関する予防モデルを探索するために、全国エリア別人口按分3,000人を対象に、UCLA3・LSNS6・スマホ依存度・情動的選好・公共空間の利用状況等のデータを取得した。

■ 戦略的PMを通じた重層的孤立・孤独予防モデルの原案 兵庫県立大学内平隆之2023/12/07作成

予防モデル	概要	孤立・孤独状態	主なリスクファクター	戦略的PM
ゼロ次予防モデル	発症やリスクファクターにつながる社会的、経済的、文化的な環境要因に着目し、それらを改善することで集団における孤立・孤独を減らす介入。	孤立感の増減 孤独感の増減 (環境認知の悪化)	出歩きたくない 立ち寄りの敬遠	歩きやすいまちづくり 個でも立ち寄れる 心理的安全性の向上 (公園づくりなど)
1次予防モデル	孤立・孤独が発生する前に行われる、主に個人に介入する生活習慣の改善、予防支援、診断、教育などの介入。	非孤立・非孤独型 (居場所の喪失)	複合的性格特性 話し相手に乏しい。 ワーク・ライフバランスの悪化。	なじみの拠点・店づくり (community-shed, Chatter and Natter, After Schoolなど)
2次予防モデル	すでに孤立か、孤独が存在する場合に、それを進行や悪化から守るための予防策早期発見・早期支援を行う介入。	孤立・非孤独型 非孤立・孤独型 (引きこもり)	転入、離別、失業、慢性疾患、可処分所得の低下、育児・介護による行動範囲の縮小	誘い出し支援 有意義な情報のリーチ、 役立つ活動への勧誘 (Be-friending, Walking-soccer 等)
3次予防モデル	すでに孤立・孤独が複合して発生している場合、障害による機能の低下や合併症を最小限に抑え、生活の質を向上させることが目的の介入。	孤立・孤独型 (閉じこもり)	外出障害・制限(精神疾患、運動障害、入院・長期療養、長期失業)、近隣における行動選択肢の喪失(店舗・施設の閉店など)	移動型支援 空き地活用 (移動販売車、移動博物館、 移動図書館など)

- ・ 近隣社会環境の多様性を可視化するためのGISによる基盤DBの作成(B-2)については、各種、小地域・地域メッシュ統計に加えて、公共空間への立ち寄りやすさや居心地の良さを分析するための基礎的な地理空間データを得た。具体的には、空中写真からは緑の分布、分筆データから空き地の分布などの抽出を行った。人流データの利用については、ドコモ、ゼンリン、Agoopの2023年10月のデータを得た。どのデータを用いて、最終的な分析を進めるかについては、長所・短所があるため、今後の課題である。

### ③社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組み

- ・ 空間的・社会的・情動的選好に基づくPMモデルの事例研究(C-1)として以下を実施した。
- ・ 空間的選好については、姫路市のモデル地区の小公園を中心に、立ち寄りやすさや居心地に関連する空間特性を分析したデータを作成した。空間特性が立ち寄りやすさに及ぼす影響について人流データ等と組み合わせた分析を予定している。
- ・ 社会的選好については、地方小都市のコミュニティセンター、高齢化したニュータウンの居場所づくりの事例、防災福祉コミュニティの事例研究、離島における共同売店の事例研究に着手した。ハイリスク者とどのように関係づくりを進めているかについて今後分析を進めていく予定である。
- ・ 情動的選好については、まちあるきを支援するアプリの特長や、VRを活用した環境認知への介入方法などの事例研究に着手した。今後は情報空間を活用した場所の認

知への介入方法について探索を進める予定である。

- ・ 介入の効果検証の予備調査 (C-2) として、以下を実施した。
- ・ 新たに近隣公園の設置が検討されている地区において10代から60代までの住民全員へのアンケート調査を実施し、公園に対する活用要望と孤立孤独状況、健康状態に関する基礎データを得た。同じ指標を活用した全国エリア別人口按分10,000人調査と比較することで地域診断に活用した。
- ・ 姫路駅前広場、山野井公園、桜山公園において、簡易アンケートを使ったプレイスメイキングの効果ををはかるための予備調査を実施し、来場者の孤立孤独状況に関するデータを取得した。特に、山野井公園においては、兵庫県立人と自然の博物館の移動博物館車を配置し、薬局の薬剤師を招いた健康講座をするなど、孤立孤独予防に資する公園処方用小公園に社会実装を試行し、実施評価とノウハウを得た。
- ・ 孤立・孤独予防に関する規範情報の提示内容の違いにより、孤立・孤独予防活動への立ち寄りの表明選好に差があるかどうかを探索した。具体的にはランダムに3種類の孤立孤独予防に関連した規範情報を冒頭で提示する方法でWEBアンケートを実施し、全国エリア別に人口按分した3,000人から回答を得た。
- ・ 場所への立ち寄りを促進するための環境認知への介入方法を探るために、特定の場所（姫路駅前および姫路市立動物園）へのビデオテープ風のぼかし加工が動画の視聴者に与える影響を調べる予備実験を行った。場所によっては、「懐かしさ」に関するブランドフィーリングを高める効果が確認された。簡単な加工方法により、場所への環境認知に介入できる可能性が示唆された。

#### (4) プロジェクトのリサーチ・クエスチョンについて明らかになったこと

令和5年度10月に採択された本プロジェクトは、研究初期の段階にあるため、本年度の成果を踏まえて、申請時の仮説を踏まえて以下に説明する。

##### Q1. PMは、孤立・孤独予防として、どのような性格傾向の人に有効か？

採択前の2021年の近畿地方1,000名へのWEBアンケートによる探索調査で孤立・孤独4類型で性格傾向に違いがあることが明らかになった（外向性、誠実性、情動性）。全国エリア別での人口按分10,000人を対象としたWEBアンケートにおいて、孤立孤独状況と性格データを2024年2月に取得した段階にある。そのため、どのような性格傾向の人に有効かについては、まず、孤立・孤独4類型で性格傾向に違いがあるか、公共空間の利用の違いがあるかを、さらに検証していく予定である。

##### Q2. 近隣社会環境の多様性を活かし、どこでPMを行うべきか？

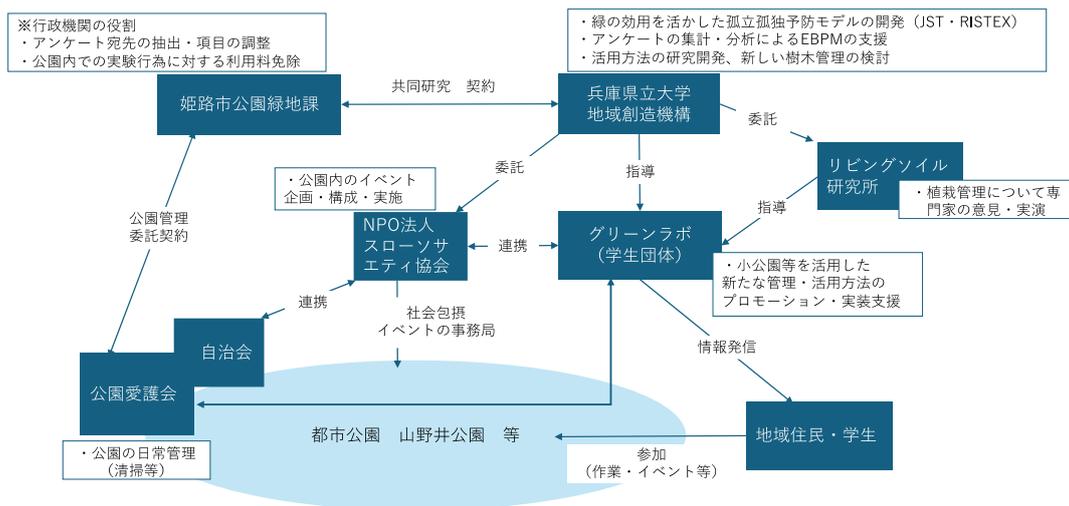
本年度作成した戦略的PMを通じた重層的孤立・孤独予防モデルの原案を作成した段階にある。原案の検証が今後必要になるが、これまでの研究蓄積から、孤立・孤独状態により、主なリスクファクターが異なると整理できるため、対象者のリスクファクターに配慮した場所でのPMを通じて、来訪者の孤立孤独状況を確認し、どの公共空間を活用することが有効であるか、その具体像を明らかにしていく必要がある。

##### Q3. 孤立・孤独予防格差解消のために、どのような空間的・社会的・情動的選好に合理的に配慮すべきか？

これまでの研究蓄積から、公共空間でのPMを実施する上で、空間的には誰もが立ち寄りやすく、居心地がよい場所であるかどうか、社会的には心理的安全性がある場所であるかどうか、情動的には情報を介した場所での経験が有意義であるかどうか、配慮が必要である。しかしながら、孤立・孤独状況ごとに選好差があると考えられるため、さらなる探索が必要である。

**Q4. 場所への立ち寄りやすさを高める戦略的PMは、どのような社会的ネットワークを構築して、だれと実施すべきか？**

公共空間は、だれもが立ち寄ることが許されている場所であるため、公共空間の管理者である行政との連携が第一にはかられるべきである。しかしながら、聞き取り調査の結果から、行政の孤立・孤独対策部門に余力があるわけではない。そのため、予防の観点からはまちづくりなどを担う団体がこれまで取り組んできた場所づくりのノウハウを活かし（下図）、孤立孤独予防に援用していくことが有効ではないかと考えている。そのためには、孤立孤独予防に資するエリアマネジメントやその開発を支える社会ネットワーク形成が必要ではないかと現段階では考えている。



地域住民の孤立孤独予防に資する公園づくりのために実装した社会ネットワーク形成の実践例

**Q5. まちの中に、誰もが気軽に訪れることができ、他者とつながれる「場所」をつくるPMを通じて、誰もが健康に過ごせるまちの仕組みは、どのように実現できるか？**

重層的な孤立孤独予防に資する共助と公助を結び合わせる役割を担い、まちづくり団体やエリアマネジメント組織同士をつなぎ戦略的PMを実現する、中間支援を支える人材育成が必要であると考えている。その仕組みとして、本年度は、サステナひめじ連絡準備会を立ち上げた。今後、利害関係者との意見交換を通じて、どのようなスキルやプログラムが必要かについて明らかにしていきたい。

(5) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- ・ 公共空間活用のための連携体制の構築については想定通りに進んでいる。人材育成については、システムアプローチやエリアビジョンの作り方などを通じて、中間支援機能を支える人材の育成をはかる必要があることがわかった。
- ・ 孤立・孤独ゼロ次予防モデルと孤立・孤独1次予防モデルの開発については、倫理審査で2ヶ月遅れたが、採択前の研究の蓄積の整理が想定より早く進んだため、空間的選好や社会的選好のデータ収集については予定より早く進んでいる。
- ・ 採択後に着手した孤立・孤独傾向にある人の情報的選好については探索段階にあるが計画通りに進んでいる。情報空間を介した立ち寄りを促進する環境認知への介入方法について、絞り込み探索する必要があることがわかった。
- ・ 近隣社会環境の多様性の可視化については、孤立・孤独1次予防モデルの結果を反映させる必要があるため、GISで基盤データを整理する段階にあるが計画通りである。ただし、実装実験を三年目に着手するには、まちづくり団体との事前調整に時間が必要になるため、次年度、計画の前倒しを検討する。
- ・ 戦略的PMのモデル開発については、選好毎の事例研究は計画通り着手できている。社会実装に向けた予備調査や予備実験も計画通り実施することができた。
- ・ 本研究の利害関係者との意見交換を通じて、孤立・孤独対策と孤立・孤独予防を区別して理解することは容易ではないことがわかった。本研究の重層モデルでは、1次予防と2次予防の間に、予防と対策のキャズム（深い溝があるのではないだろうか）。

2-5. 会議等の活動

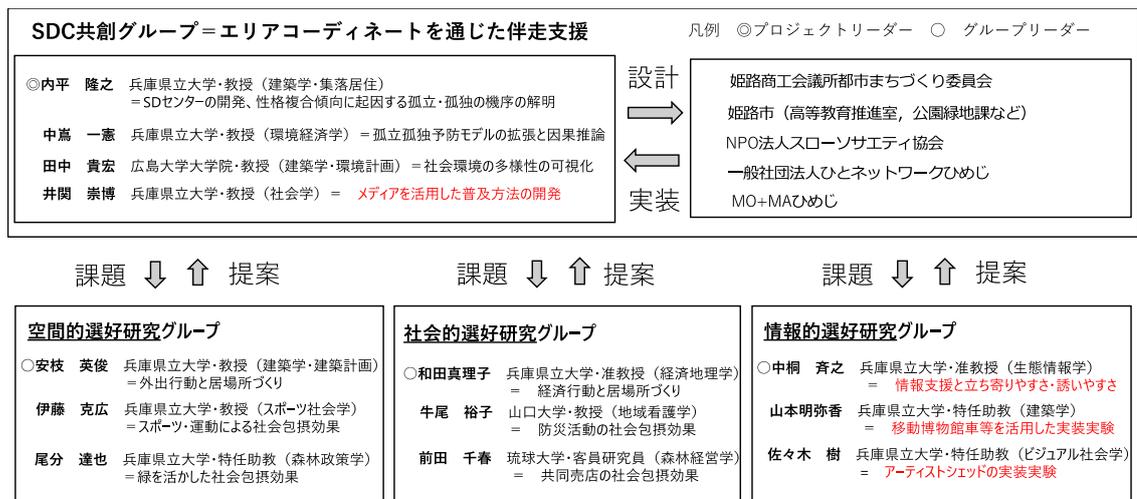
年月日	名称	場所	概要
2023年10月4日	都市まちづくり委員会連携会議	姫路商工会議所	採択された取り組みの内容の説明と人材育成での連携相談
2023年10月11日	第一回定例連絡会議（サステナ姫路）	ホテル日航姫路友好クラブ	採択された取り組みの内容の説明と連携相談
2023年10月20日	第一回戦略的PM定例研究会	リモート	採択内容と役割分担の確認
2023年10月23日	第二回定例連絡会議（サステナ姫路）	ホテル日航姫路友好クラブ	協働のデザインについて
2023年10月24日	都市まちづくり委員会連携会議	姫路商工会議所	人材育成講座の内容に関する意見交換
2023年11月2日	情報選好研究チーム打合せ	地域創造機構支部	本年度の研究の進め方について
2023年11月2日	公園利用に関する研究会	地域創造機構支部	姫路市公園緑地課との公園の利用に関する共同研究
2023年11月8日	第三回定例連絡会議（サステナ姫路）	ホテル日航姫路友好クラブ	協働のデザインについて
2023年11月	第四回定例連絡会議	ホテル日航姫路	協働のデザインおよび今後の取

22日	議 (サステナ姫路)	路友好クラブ	り組みについて
2023年11月 22日	第二回戦略的PM 定例研究会	リモート	研究開発の進捗報告
2023年11月 30日	公園利用に関する 研究会	地域創造機構 支部	姫路市公園緑地課との公園の利 用に関する共同研究
2023年12月 7日	庁内説明会	姫路市役所	採択された取り組みの内容の説 明と協定の更新について
2023年12月 21日	公園利用に関する 研究会	地域創造機構 支部	姫路市公園緑地課との公園の利 用に関する共同研究
2023年12月 22日	第三回戦略的PM 定例研究会	リモート	研究開発の進捗報告
2023年12月 29日	第五回定例連絡会 議 (サステナ姫路)	ホテル日航姫 路カフェ	協働のデザインおよび今後の取 り組みについて
2024年1月 12日	公園利用に関する 研究会	地域創造機構 支部	姫路市公園緑地課との公園の利 用に関する共同研究
2024年1月 19日	第六回定例連絡会 議 (サステナ姫路)	ホテル日航姫 路友好クラブ	協働のデザインおよびフォーラ ムについて
2024年1月 26日	第四回戦略的PM 定例研究会	リモート	研究開発の進捗報告
2024年1月 31日	第七回定例連絡会 議 (サステナ姫路)	ホテル日航姫 路友好クラブ	キックオフフォーラムについて
2024年2月7 日	人材育成講座	姫路商工会議 所	複雑な課題を読み解く！企業・ 地域の未来を探る！システム思 考&TOC入門講座を実施
2024年2月9 日	公園利用に関する 研究会	地域創造機構 支部	姫路市公園緑地課との公園の利 用に関する共同研究
2024年2月 15日	第八回定例連絡会 議 (サステナ姫路)	ホテル日航姫 路友好クラブ	キックオフフォーラムについて
2024年2月 26日	公園利用に関する 研究会	地域創造機構 支部	姫路市公園緑地課との公園の利 用に関する共同研究
2024年3月1 日	第五回戦略的PM 定例研究会	リモート	研究開発の進捗報告と今年度の 成果について
2024年3月 15日	第九回定例連絡会 議 (サステナ姫路)	ホテル日航姫 路友好クラブ	キックオフフォーラムの成果と 次年度の進め方
2024年3月 19日	都市まちづくり委 員会連携会議	姫路商工会議 所	次年度の連携について
2024年3月 20日	山野井公園まつり	山野井公園	姫路市公園緑地課と連携した小 公園を活用した社会包摂の予備 実験。

### 3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- ・ 姫路市の公園整備（八幡西公園）の地域診断において、孤立・孤独状況簡易指標を試行的に利用した。
- ・ 姫路駅前広場，山野井公園，桜山公園において、孤立・孤独状況簡易指標を使ったプレイスメイキングの効果をはかるための予備調査を実施した。

### 4. 研究開発実施体制



※赤字は令和5年度最終時の変更点

#### (1) SDC共創グループ

- ①内平隆之（兵庫県立大学，教授）
- ②実施項目

PoCの統括，SDCの設立，孤立・孤独予防ゼロ次・1次予防モデルの開発，近隣社会環境の多様性の可視化，社会実装実験の実施と検証。

本グループがPoCの統括を担い，各グループに社会実装に向けた課題を提供し，知見を統合したプロトタイプづくりを担当。エリアマネジメント組織と協力して，ワークショップや社会実装実験と検証，フォーラムや人材育成講座を担う。孤立・孤独傾向にある人の立ち寄りやすさの仮説の検証と限界を明らかにするとともに，近隣社会環境の多様性に基づく戦略的PMを支える伴走支援のあり方を研究開発するために必要。

#### (2) 空間的選好研究グループ

- ①安枝英俊（兵庫県立大学，教授）
- ②実施項目

空間的選好に応じた指標開発，居場所づくりのPM研究，散策支援モデルの提案  
外出行動と居場所の関係，緑やスポーツを活かした社会包摂活動のあり方を研究し，PoCの社会実装の課題に対して提案を行う役割を担うため必要である。特にポピュレーションアプローチを通じて，誰もが立ち寄りやすい場所づくりの機序を解明する。

(3) 社会的選好研究グループ

①和田真理子（兵庫県立大学，准教授）

②実施項目

社会的選好に応じた指標開発，商業者と連携したPM研究，移動式支援モデルの提案  
経済行動と居場所の関係，防災活動・共同売店を活かした社会包摂活動のあり方を研  
究し，PoCの社会実装に向けた課題に対して提案を行う役割を担うため必要である。  
特にハイリスク者の利害関係者（保健師，商業者，家族など）との連携による誘いや  
すい場所づくりの機序を解明する。

(3) 情動的選好研究グループ

①中桐齊之（兵庫県立大学，准教授）

②実施項目

情動的選好に応じた指標開発，商業者と連携したPM研究，情報支援モデルの提案  
PoCの社会実装に向けた課題に対して，散策行動の情報支援のあり方，商業地域・ア  
ートディレクションによる散策支援を研究し，提案を行う役割を担うため必要であ  
る。特にメディアおよびコンテンツと社会参画の関係性について解明する。

## 5. 研究開発実施者

### SDC共創グループ (リーダー氏名：内平 隆之)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
内平 隆之	ウチヒラ タカユキ	兵庫県立大学	地域創造機構	教授
中嶋 一憲	ナカジマ カズノリ	兵庫県立大学	環境人間学部	教授
田中 貴宏	タナカ タカヒロ	広島大学大学院	先進理工系科学研究科	教授
井関 崇博	イセキ タカヒロ	兵庫県立大学	環境人間学部	教授
中塚 雅也	ナカツカ マサヤ	神戸大学大学院	農学研究科	教授
川向 肇	カワムカイ ハジメ	兵庫県立大学	大学院情報科学研究科	准教授
小沢 啓太郎	オザワ ケイタロウ	広島大学大学院	先進理工系科学研究科	D2

### 空間的選好研究グループ (リーダー氏名：安枝 英俊)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
安枝 英俊	ヤスエダ ヒデトシ	兵庫県立大学	環境人間学部	教授
伊藤 克広	イトウ カツヒロ	兵庫県立大学	国際商経学部	教授
尾分 達也	オワケ タツヤ	兵庫県立大学	地域創造機構	特任助教
岸本 麻由	キシモト マユ	兵庫県立大学	環境人間学部	3年生
藤近 愛	フジチカ アイ	兵庫県立大学	環境人間学部	3年生
森田 真央	モリタ マオ	兵庫県立大学	環境人間学部	3年生

社会的選好研究グループ（リーダー氏名：和田 真理子）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
和田真理子	ワダ マリコ	兵庫県立大学	国際商経学部	准教授
牛尾 裕子	ウシオ ユウコ	山口大学	大学院医学系研究科	教授
前田 千春	マエダ チハル	琉球大学	グローバル教育支援機構	客員研究員
網木 政江	アミキ マサエ	山口大学	地域レジリエンス研究センター	学術研究員
大田伊久雄	オオタ イクオ	琉球大学	農学部	教授

情動的選好研究グループ（リーダー氏名：中桐 齊之）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
中桐 齊之	ナカギリ ナリユキ	兵庫県立大学	環境人間学部	准教授
山本明弥香	ヤマモト アヤカ	兵庫県立大学	地域創造機構	特任助教
佐々木 樹	ササキ ミキ	兵庫県立大学	地域創造機構	特任助教
向坂 幸雄	サキサカ ユキオ	中村学園大学	短期大学部	准教授
森 悠貴	モリ ユウキ	兵庫県立大学	環境人間学部	4年生

## 6. 研究開発成果の発表・発信状況，アウトリーチ活動など

- ・ Note 人間のためのプレイスメイキング ([https://note.com/pm\\_himeji](https://note.com/pm_himeji)) の開設
- ・ 内閣府・孤独・孤立に資する官民・民間連携による特色ある取組の推進の取材記事に、姫路市と連携した「次世代の小規模公園のあり方と管理方法に関する研究～地域住民の孤立孤独予防に資する公園～」が掲載  
[https://www.cao.go.jp/kodoku\\_koritsu/torikumi/platform/katsudou/kanmin\\_minmin/index.html](https://www.cao.go.jp/kodoku_koritsu/torikumi/platform/katsudou/kanmin_minmin/index.html)

### 6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2024年3月3日	住み続けられるサステナブルな姫路のデザインを展望する～誰もが立ち寄りやすい駅前づくりから、誰でも誘いやすいまちづくりへ～	サステナひめじ連絡準備会	姫路	50名程度	サステナひめじ連絡準備会のキックオフフォーラムとして実施。誰もが立ち寄りやすい場所のデザインについて、様々な取り組みが報告された。

### 6-2. 社会に向けた情報発信状況，アウトリーチ活動など

- (1) 書籍，フリーペーパー，DVD
  - ・なし
- (2) ウェブメディアの開設・運営
  - ・人間のためのプレイスメイキング，[https://note.com/pm\\_himeji](https://note.com/pm_himeji)，2024/3/31
- (3) 学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等
  - ・兵庫県立大学看護学部デジタルヘルスケア・センター開設記念 キックオフセミナー 和田真理子「まちづくりプロジェクトにおける孤立化予防」

### 6-3. 論文発表

- (1) 査読付き（  2  件）
  - 国内誌（  2  件）
    - ・ 内平隆之，中畠一憲，中塚雅也，安枝英俊，伊藤克広，主観的健康感を高める空間的処方探索:兵庫県姫路市民を対象とした2023年WEBアンケート調査分析における緑の効用の比較，日本建築学会計画系論文集，2023，88 巻，814 号，p. 3274-3283，公開日 2023.12.
    - ・ 中桐斉之，森悠貴，向坂幸雄，内平隆之，ビデオテープ風のぼかし加工が動画の視聴者に与える影響，兵庫県立大学環境人間学部 研究報告第 26 号，2024.3.

●国際誌 ( 0 件)

(2) 査読なし ( 0 件)

#### 6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

- (1) 招待講演 (国内会議 0 件, 国際会議 0 件)
- (2) 口頭発表 (国内会議 0 件, 国際会議 0 件)
- (3) ポスター発表 (国内会議 0 件, 国際会議 0 件)

#### 6-5. 新聞/TV報道・投稿, 受賞等

- (1) 新聞報道・投稿 ( 0 件)
- (2) 受賞 ( 0 件)
- (3) その他 ( 1 件)
  - ・内閣府・孤独・孤立に資する官民・民民連携による特色ある取組の推進の取材記事に、姫路市と連携した「次世代の小規模公園のあり方と管理方法に関する研究～地域住民の孤立孤独予防に資する公園～」が掲載された。

#### 6-6. 知財出願

- (1) 国内出願 ( 0 件)
- (2) 海外出願 ( 0 件)